

A—17 東北・北海道地区の寒さに対する生活改善についての総合的研究

(第1報) —同一食餌摂取ラットの気温による発育試験の相違について—

宮城学院女大 後藤 たへ
東北大教育 佐藤 徳子
桜の聖母短大 ○齋藤 好枝

1. 東北・北海道地区に於ける生活条件の特殊なものをとりあげ、その改善について家政学的な立場で総合的並びに有機的な改善方法について研究を積み重ねたい。まず、同地区の寒さというものが、我々の人体にどのような影響を及ぼすか、また、その改善策の一部をとりあげ、予報的なものではあるが今回の発表とする。第1報では、我々の住む地区の寒さが人間の発育に如何なる影響を及ぼすものかの推定のために動物実験を試みて探求した。

2. 純系ラット（ウイスター系）を用いて同一食餌を同量与えた場合、気温の異なる季節によってその発育状態をしらべた。すなわち体重54gのラットに米、麦と植物油（サラダ油）とスキムミルクで脂肪を10%、蛋白質を18%とし更に塩類を4%、パンビタン（総合ビタミン剤）2錠の食餌を給与した。それによって季節の影響による発育結果をみた。

3. 9月給与群の27日目7匹平均体重が明らかに12月から1月にかけての給与群より大であった。さらに室温並びに湿度を測定して気温の高い7月中の発育状態と同様に低い1月についてくわしい比較を続行中である。